

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立瀬田北中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◇結果について◇

今年度の4月に行われた全国学力・学習状況調査では、国語・数学（紙面実施）・理科（CBT方式で実施）、の3教科、また質問紙による調査が実施されました。以下に本校の傾向の一部を示します。

国語

「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる」や、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」など、短答式の問題については全国平均と比較しても高い正答率でした。一方で、「発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」など思考・判断・表現を問う記述式の問題の正答率は全国平均を下回る結果となっており、文章の全体と部分の関係に注意して読む力や目的に応じて必要な部分に着目して読む力を高めていく必要があると考えられます。また、記述式の問題に関しては全ての問題で無回答率が全国平均を上回る結果となっており、粘り強く課題に取り組む力や記述する力に課題があると考えられます。

数学

「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」や「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」など、知識・技能を問う問題について、全国平均と比較して正答率が高かったです。一方で、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」などについては全国の平均正答率を下回る結果となりました。日常生活や社会の事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由について根拠を明らかにして説明する力をさらに高める必要があると考えます。

理科

「スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」や、「生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる」など、知識・技能を問う問題について、全国平均と比較して正答率が高かったです。一方で、同じ知識・技能を問う問題でも、選択式ではなく記述式になると正答率が全国平均と比較して下がる傾向にあります。また、実験を振り返る過程について問う問題や、実験結果が導かれた理由などを問う問題については、選択式・記述式のどちらも全国の平均正答率を下回る結果となりました。仮説を立てて科学的に思考を深める学習場面において、多面的かつ総合的に分析して解釈する力を高めていく必要があります。

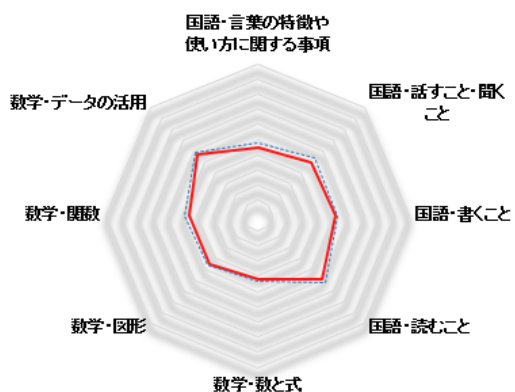
質問紙調査より

「1、2年生の時の授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して、95%を超える生徒が「ほぼ毎日」と回答しました。これは全国・滋賀県の平均を大きく上回っており、ICT機器を利用した学習を積極的に進められていることがわかります。「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」という質問に対しては、全国平均よりも低いものの、3年連続で肯定的な回答が増えています。本校が力を入れている地域Ranger活動がその後押しをしていると考えられ、これからも地域の皆様と一緒に活動を推進していきたいと考えています。

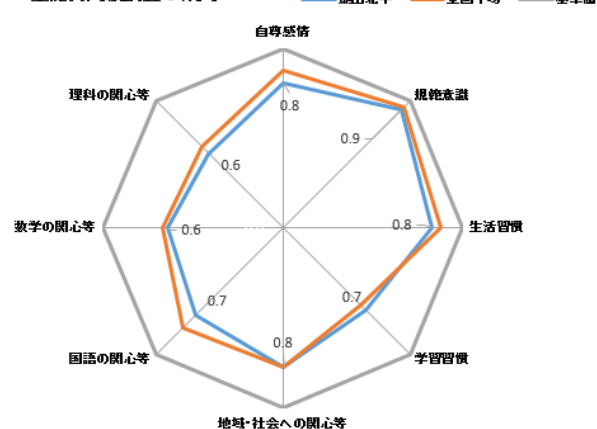
また、「自分には良いところがあると思いますか」という自己肯定感に関する質問でも、過去3年間と比較して肯定的な回答の割合が増えています。ただ、全国・滋賀県の結果に比べると、その数値は高くはありません。日々の教育活動はもとより、奉仕活動や大人からの温かい声かけ等を通して、自信をもって様々な事にチャレンジできる生徒の育成を目指したいと考えています。

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

国語・数学 学習指導要領の内容・領域の傾向



生徒質問紙調査の傾向



◇指導の充実に向けて◇

- ① 瀬田北のあたりまえ「あいさつ・礼儀・身だしなみ・思いやり」を励行する。【**望ましい生活習慣、規範意識**の育成】
- ② 授業、学校行事、地域 Ranger 活動などを通して豊かな人間関係の構築を目指す。【**問題解決力、自己肯定感**の育成】
- ③ 学習内容の「めあて」と「振り返り」を大切にし、主体的で深い学びを実現する。【**自己調整力、主体性**の向上】
- ④ ICT 機器や体験活動を効果的に活用した対話的な学びを充実させる。【**自己表現力**の育成】